

熊大通信

vol. 70
2018 AUTUMN

特集Ⅰ

歴史と共に…

熊本大学の歴史・文学研究 最前線

特集Ⅱ

熊本大学の高大連携

高校生も一緒に学ぼう！

学生企画

熊本大学体育会って 何だ???



その人にしかない経験を歌っていることに、
私たちは尊敬の念を抱きます。

— 安永蒞子(歌人)



熊大で生きる君たちへ

進化しつづける熊本大学医学部

熊本大学医学部。地震の影響もあり、新棟の建設がすすむ。最新の設備と環境が整い、熊本だけでなく、全国の医療を支える体制づくりを目指している。

言葉は、熊本出身の歌人安永蒞子(やすながふきこ)(大正9年2月19日-平成24年3月17日)が歌集「西湖」を紹介する新聞記事の中で語ったもの(平成20年2月3日西日本新聞「九州の100冊」)。事実と自分だけの経験を言葉にする重要性を語る一言である。

CONTENTS

- 03 特集Ⅰ 歴史と共に…
熊本大学の歴史・文学研究 最前線
- 11 研究室探訪 「人を幸せにするのがエンジニアリング」
世界最高感度のセンサーを研究・開発
工学部
橋新 剛 准教授
- 13 特集Ⅱ 熊本大学の高大連携
高校生も一緒に学ぼう！
- 15 学生企画 熊本大学体育会って何だ???
- 17 卒業生ジャーナル
- 19 KUMADAI TOPICS
- 22 熊本大学基金よりお知らせ

表紙 / 熊本大学教育学部附属特別支援学校の児童・生徒の作品
(右上から)小学部2年松山展さん・1年稲富瑛祐さん・1年三浦琉聖さん
(左下)中学部3年安井謙伸さん、(右下ならびに鉛筆画)小学部3年荒川琢磨さん

熊本大学広報誌 熊大通信 vol.70

*皆さまのご意見・ご感想をお寄せください。

[発行] 国立大学法人熊本大学
〒860-8555 熊本中央区黒髪 2-39-1
Tel.096-342-3119 Fax.096-342-3110
sos-koho@jimu.kumamoto-u.ac.jp

[編集] 熊大通信編集委員会
大日方信春/委員長 大学院人文社会科学研究所(法学系)
茂木 俊伸/大学院人文社会科学研究所(文学系)
松永 拓己/大学院教育学研究科
河野憲一郎/大学院人文社会科学研究所(法学系)
木村 弘信/大学院先端科学研究所(理学系)
川島扶美子/大学院先端科学研究所(工学系)
永田まなみ/大学院生命科学研究所(保健学系)
首藤 剛/大学院生命科学研究所(薬学系)
後藤 正三/総務部総務課広報戦略室

[制作] 株式会社 談

特集 I

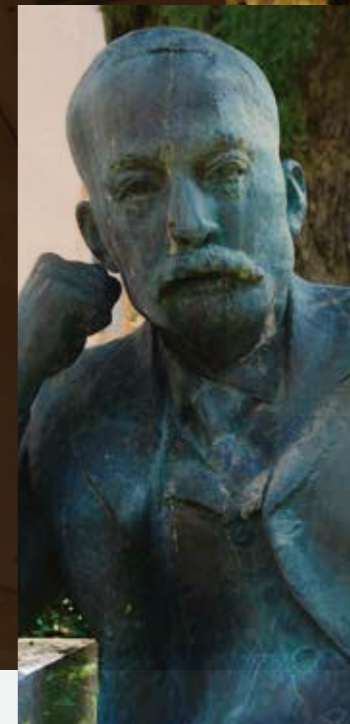
歴史と共に

熊本の歴史・

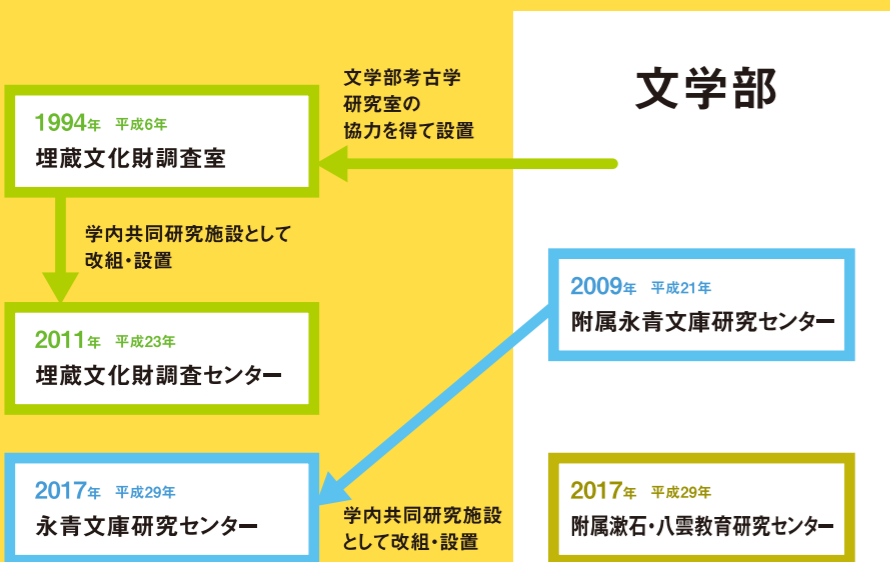
文学研究 最前線

歴史や文学の研究と聞くと、過去のことを読み
けれど、歴史や文学の世界
発見された史料や文献を紐解くと、新しい
熊本大学には、古代から近代
専門に研究を行っている研究
それぞれのセンターの

解いているだけのように思われがちです。
はまだまだ謎だらけ。
事実が次々に発見されています。
についての歴史・文学を
センターがあります。
研究をご紹介します。



3つのセンターの沿革



文学部長 水元 豊文 教授

楽しさがある。極端に流されやすい
現代だからこそ、長い時間軸の中で
自分や社会を振り返るのが大事に
なるのです。一流の資料と一流の研
究者に触れられる、それが熊本大学
の3研究センターだと思います。

私たちの歴史観を大きく、楽し
く変えてくれるのが、キャンパス内
に眠る遺跡や遺物を発掘する「埋
蔵文化財調査センター」、細川家の
膨大な古文書を研究する「永青文
庫研究センター」、そして、五高で教
鞭をとった作家たちの軌跡を追
続ける「漱石・八雲教育研究セン
ター」です。
埋蔵文化財調査センターは、掘っ
ても出ないとされていた深さから
縄文人骨を発掘するなど、注目に
値する成果の宝庫です。永青文庫研
究センターも同じく、三大大名家
文書に数えられる細川家の文書だ
けでなく、家老や手永などの文書も
含めると、類例のない資料群を有
し、それらを丹念にひも解くこと
で、戦国から明治に至る歴史観の間
い直しに貢献しています。
また、2017年12月に発足した
漱石・八雲教育研究センターでは、
研究成果を地域の宝として活かし
ていきたいと考えています。熊本県
や熊本市と連携し、漱石が熊本で
詠んだ俳句を、詠んだ場所で体感
できるアプリを制作したり、八雲
がアメリカのニューオーリンズ時代
に経営していたレストランの料理
を再現して提供するなど、観光に
つながる取り組みも検討中。歴史
を身近に楽しみ、そこから学問に
近づいてもらえたらと思います。
歴史を学ぶ上で、過去の人物がい
た場所に立ち、その存在を実感でき
ること、また、古文書などリアルな
ものを通して過去に思いを馳せる
ことはとても大切。熊本大学には、
過去から蓄積してきたさまざまな
資料や研究成果があり、歴史を感
じながら、より高いレベルの研究が
できるという強みがあります。
歴史には間違いなく「面白む」

古代から近代までの歴史と文学を研究する、熊本大学の
3つのセンターについて、文学部長の水元豊文教授に伺いました。
**歴史観を変える、文学を身近にする
熊本大学の3つの研究センター**



1 大坪先生が研究している三万田東原遺跡(菊池市)の発掘(試掘)の様子 2 構内から発掘された遺物は丁寧に復元。センターに展示される 3 大坪先生の専門は石製装身具。「当時の流行などがわかって面白いんです」 4 埋蔵文化財調査センターでは、発掘調査後、現地説明会をすることも。「地域の方に、この先人の知恵や技術の素晴らしさを知ってもらいたいと思います」

埋蔵文化財調査センター

おおつぼ ゆきこ

大坪 志子 准教授

熊本大学大学院社会文化科学研究科文化学専攻博士後期課程修了。2018年より熊本大学埋蔵文化財調査センター准教授に。専門は東アジアの墓制と装身具。



埋蔵文化財調査センター

Research Center for Buried Cultural Properties

熊本大学のキャンパスは、実は県内有数の埋蔵文化財包蔵地。工事で遺跡が壊れてしまう場合は、事前に発掘調査を行います。そんな調査を一手に担い、数々の貴重な発見も続けているのが埋蔵文化財調査センターです。

熊本大学だからこそ、緊急調査も学術レベル埋蔵文化財包蔵地から得る過去を未来へ

工事にかかわる埋蔵文化財の調査を一手に担う

熊本大学のキャンパスは熊本県下でも有数の遺跡(埋蔵文化財包蔵地)の範囲内にあります。「文化財保護法では、埋蔵文化財包蔵地で土木工事などを行う場合、必ず事前に届出をします。そして、やむをえず遺跡が破壊される場合には、記録を残すための発掘調査を行います。熊本大学もそれにならって再開発を行っています」。こう語るのは、埋蔵文化財調査センターの大坪志子准教授。構内遺跡の調査を自治体に依頼するところもありますが、大学の場合は

授業のスケジュールや予算の関係もあり調査の順番待ちがしつらいこと、そして、「やはり、せつかく文学部歴史学科を持ち、文化財の発掘や調査にかかわる人材を輩出する大学なので、自分たちで学術レベルの発掘調査をする、という気持ちもあります」。2016年4月の熊本地震以来、さまざまな修復にともなう工事のため、大坪准教授らは多忙な毎日を送っています。

未来への指針を与えてくれる足元の歴史を大切に

埋蔵文化財調査センターの調査で

ちよつとした興味から世界が広がる

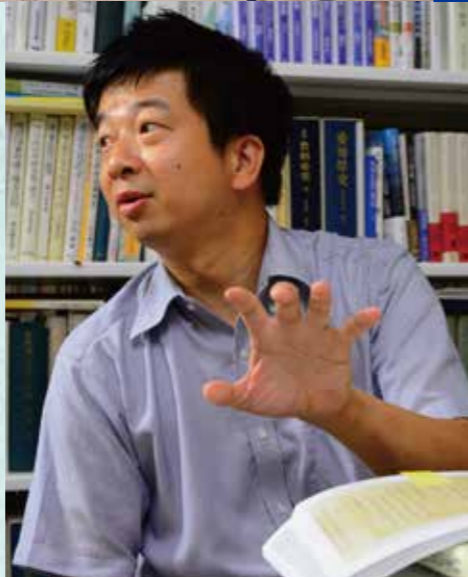
は、貴重な発見が多く得られています。「古代には、畿内の都から地方へ官道が敷かれ、駅家が各所に配置された駅伝制という交通システムがありました。九州では畿内から大宰府へ、大宰府から各地に道があり、駅のひとつが黒髪・子飼あたりにあったと考えられ、実際に道の跡を発見しています。当時は蚕養駅と書いて、こかい駅と呼ばれていたようです。そのほか、くすの木会館周辺では土馬や、墨書きをした土器も発掘され、このあたりを治めていた豪族・建部君の居館であったと考えられているそうです。「黒髪南キャンパスでは縄文人骨が出ました。日本は火山に由来する酸性の土壌で、骨は残りにくい。しかし、硬い岩盤の下に中性土壌があり人骨が残されたようです。当初の計画ではその場所に排水管が通される予定でしたが、遺跡保護のためルートを迂回するという変更がなされたそうです。「これは、熊本大学の英断。ほかにも人骨が眠っているの、これを救うのが私たちの使命だと考えています」と話してくれました。

「黒髪キャンパスは早い時期に五高になっていきますので、大学内が乱開発されていません。せつかく残されているものは可能な限り残し、今後、大学のためにやむなく壊すのであれば、余計に大学の歴史の一部としてきちんと記録を残したいという思いがあります」。また、国指定になるような特別な遺跡ばかりではなく、庶民の生活に密着した普通の遺跡から、人々がどんな生活をしてどんな知恵を持っていたかを知ることができ、そんな情報の積み重ねが考古学を進展させると話します。「学生が、ちよつとした興味でもここに足を踏み入れてみれば、いつか何かに結びつき、世界が広がるかもしれない。地域の方々にも、当センターを通して小さな文化財でも残す大切さに気づいていただければ」と大坪准教授。

「私たちは未来を知ることではできません。でも、未来に向かって指針を与えてくれるのが歴史ではないでしょうか。」



1 永青文庫に残る細川幽齋筆の「古今和歌集」
 2 永青文庫には熊本城下の地図も残る。鮮やかな色合いは時代を感じさせない。
 3 地震後の被災レスキュー活動の一環として開催された歴史資料整理の方法についての講義風景
 4 図書館に寄託された膨大な古文書から江戸の行政と暮らしを読み取ることができる



永青文庫研究センター
 いまむら なおき
今村 直樹 准教授
 名古屋大学大学院文学研究科博士後期課程修了。静岡大学人文社会科学部を経て、2017年より熊本大学永青文庫研究センターに着任。細川家文書などの研究を行っている。専門は、日本近世史・近代史(地域社会論、明治維新論)。



永青文庫研究センター

Eisei Bunko Research Center

現代に残る江戸時代の古文書の中で、数やまとまり、質においても秀逸な永青文庫・細川家文書。
 5万8千点にもおよぶその古文書を管理・研究し、近世歴史研究の最先端を行くのが永青文庫研究センターです。

大名家文書の中でも傑出した存在 永青文庫文書で、江戸時代研究をリードする

江戸時代の熊本藩行政は全国モデル的存在だった

公益財団法人「永青文庫」から細川家文書が熊本大学に寄託されたのは1964年、今から50年以上前のこと。以来重ねられた研究成果を学内外で活用するために2009年に設立されたのが永青文庫研究センターです。「現代に残されている大名家文書は全国にいくつもありますが、永青文庫の場合、殿様関係のほかには藩庁の行政資料が多数残されているところが傑出しています」。こう話すのは、永青文庫研究センターの今村直樹准教授です。「宝暦から農民まで揃うほかにない古文書研究

歴の改革が行われた1750年代、熊本では行政システムが整備され、それが全国的に注目を集めました。熊本へ「法を取りに来る」という言葉が生まれたほど、熊本の行政システムは先進的でした。明治の廃藩置県で藩がなくなる時、細川家家臣らは、それほど実績のある行政記録を後世に残すべきと考え、流出した文書も自ら買い戻しました。「家臣らは、強烈的なアイデンティティを持ち、細川家文書がなくなれば、将来の熊本はもろく日本の歴史編纂に支障が出るかと考えました。そんな強い意志で動いた家臣らがついて、貴重な古文書が大量に残された経緯も特徴

筆すべきことだと思えます」。

殿様から農民まで揃う

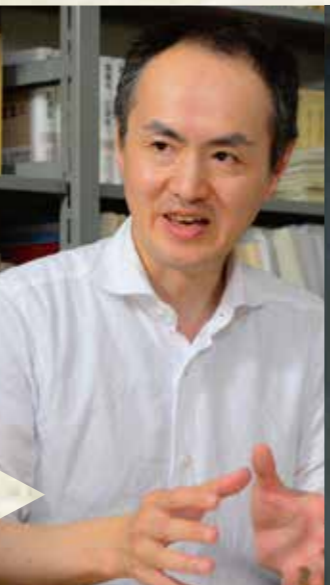
ほかにない古文書研究

細川家文書を読み解くと、私たちが持つ江戸時代に対するイメージ

が、実は日本の行政システムは江戸時代を通して成長し、近代行政に継承されています。そんな近代化の過程が見えるのが、ほかにない永青文庫のすごさです」と話してくれました。

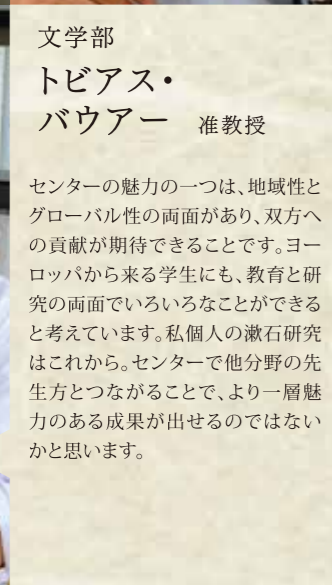
ちががりやと変わります。「たとえば、職務マニユアル。これは宝暦の改革の際、藩の主要役人の仕事内容を明確化したものです。城などの建築担当役人の項目には、建築事業は華美にするよりも堅固さが大事で、必要な場合は農民を動員するが、その際は必ず彼らの本業を邪魔しないよう配慮するように、などと記されています」。これまで、江戸時代の農民は税金を搾り取られる存在と思われていました。しかし、実際の大名家は農民との契約関係の上に成り立っており、税金の額は農民の合意のもとに決められていたことが研究でわかってきているそうです。今村准教授は、「明治以降の西洋化で日本ががらりと変わったというイメージ

膨大な細川家文書の総目録は今年度中にホームページに公開され、キーワード検索が可能に。また、細川家の筆頭家老であった松井家の4万点にのぼる古文書も、現在目録作成が進められています。熊本地震後から続けられている「熊本被災史料レスキューネットワーク」では、一般民家から村の庄屋などの記録も見つかっており、「殿様から農民まで、すべての社会層の古文書が揃い、それを横断的に研究できる場所はほかにありません。細川家を中心とした研究から、各地の大名家の研究も総括し、江戸時代の日本史全体の研究を総合化するような役割を担っていきたいと考えています」。



文学部
にしき いさむ
西槇 偉 教授

文学部
さかもと まさき
坂元 昌樹 准教授



文学部
トビアス・
バウアー 准教授

センターの魅力の一つは、地域性とグローバル性の両面があり、双方への貢献が期待できることです。ヨーロッパから来る学生にも、教育と研究の両面でいろいろとできると考えています。私個人の漱石研究はこれから。センターで他分野の先生方とつながることで、より一層魅力のある成果を出せるのではないかと思います。

文学部
まつおか ひろし
松岡 浩史 准教授

漱石は、英国留学中にウィリアム・クレイグというシェイクスピアの研究者に師事をして大きな影響を受けています。漱石作品の、たとえば『吾輩は猫である』の冒頭には、ヨーロッパ的発想である、人の外見で判断するフィジオノミー（観相学）がないと説明がつかない表現があります。そういったことを知らずに読み、実はおもしろさが完全に理解できていないかもしれないことを発信していきたいと思っています。ものごとを理解し、解決する手段を切り拓く科学技術に対し、それに先立つ理念を追究するのが文系。文系の学生にはそんな誇りをもって学んでほしいと思います。



漱石・八雲教育研究センター

Center for Soseki and Hearn Studies

熊本大学の前身のひとつ、第五高等学校で教鞭をとった偉大な先人たち。その中のふたりが、夏目漱石と小泉八雲です。受け継がれるふたりの軌跡と研究のさらなる発展と発信を担うのが漱石・八雲教育研究センターです。



3

1 附属図書館から教育学部に向かう道添いにある夏目漱石の銅像。伸ばされた左手に頭をなでてもらうと、頭がよくなるという伝えられている。
2 赤門から五高記念館に向かう道にある小泉八雲のレリーフ。熊本大学名誉教授で彫刻家の石原昌一氏の制作
3 漱石・八雲教育研究センターの前身である研究会や、センターのメンバーが発行した書物。附属図書館などで閲覧できる。

「漱石や八雲を熊本の方や観光客の方にもっと身近に感じてもらう、そのうえで彼らからのメッセージを感じていただけるような取り組みができたらしと考えています」。

漱石と八雲。
ふたりの作品と
生涯から見える可能性を、
日本文学の枠を超えて捉える

海外文学や
比較文学の視点から
作品と生涯を知る魅力

夏目漱石と小泉八雲が教壇に立った第五高等学校。その流れをくむ熊本大学には、二人のさまざまな史料や、その文学・生涯に関する研究成果の蓄積があります。それらをより発展させ、対外的に公開していくために設立されたのが漱石・八雲教育研究センターです。メンバーの一人である坂元昌樹准教授は、「センターの特色は、日本文学や英文学の研究者だけでなく、中国語、中国文化文学、フランス文学、ドイツ文学をどう受け入れるかなど、いろいろな意味で刺激になるはずだと話してくれました。

学、そして比較文化学など、さまざまな領域の研究者がメンバーであることです。漱石と八雲は、著作も彼ら自身も、二国の社会や文化の枠には収まらないような存在。日本文学の中だけで捉えると見えてこないさまざまな視点や表現、生涯そのものが示す可能性を、多様な領域にかかわる先生方が各専門の立場から捉えると見えてくるものがあるはずですよ」と言います。母国以外の文化から、さまざまな影響を受け、世界に知られる多くの作品を書いた二人。彼らの生き方を深く知ることは、今後ますますグローバル化を目指す熊本大学で学ぶ学生にとって異文

共同研究の発展や
学外での情報発信にも期待

同じくセンターのメンバーの西槇偉教授は「漱石は、日本人が西洋の近代文化を受け入れる際には、自分たちが持つている東アジアの価値観も大切にすべきだと考えていました。豊子愷という中国の作家は、自分の問題意識と近い先達として漱石を捉え、彼を好んで翻訳もしています。日本文学では収まりきれない世界の漱石と

して、研究を進めたいと思っています」と語ります。また、専門とする比較文学において漱石と八雲は非常にいいテーマだと西槇教授。「越境と共生の文化学」をテーマとした共同研究についても、「漱石が大連やハルビンを旅した旅行記である『滿韓』と『朝鮮』を題材に、坂元准教授を含め中国や韓国の漱石研究者も巻き込み研究のさらなる発展に期待しています」

坂元准教授や西槇教授らは以前から、漱石と八雲をテーマにした市民講座を行っていました。センター設立後は熊本市と連携し、漱石や八雲の旧居など、学外での情報発信も計画しています。「漱石や八雲を熊本の方や観光客の方にもっと身近に感じてもらう、そのうえで彼らからのメッセージを感じていただけるような取り組みができたらしと考えています」。

lab's data

【大学院先端科学研究部
(工学系)】



□ 修論・卒論テーマ

< 学内外共同研究 >

・酸化物半導体PN接合界面の構築と高感度ガスセンシング設計

・陽極酸化による酸化物半導体のナノ構造制御と室温応答型センサの開発

・ゼオライト厚膜センサによるCO₂検知

< 企業との共同研究 >

・二次イオン質量分析による発電素子用Fe系合金層の熱処理条件の最適化

・イメージセンサー用Siウエーハの界面準位密度測定による不純物汚染度の推定

・酸化物半導体マイクロセンサによる火山性ガス検知

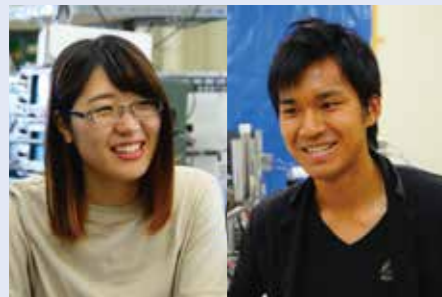
・呼吸診断用マイクロセンサの試作

□ メンバー

工学部材料・応用化学科4年 3人

大学院自然科学教育部博士前期課程1年 4人

Interview



大学院自然科学教育部博士前期課程1年

男 祐希さん(左)

この学科は金属系を扱う研究室が多いのですが、私は非鉄系に興味があり、橋新研究室を選びました。人数は少ないですが、研究室の仲間はなんでも話し合えるチームメイトのような存在です。現在は、橋新先生のメインテーマである火山ガスセンサーに直接かかわる材料を研究。昨年学会に出た時は、先輩の研究結果を発表したようなものだったので、今年の冬の同じ学会では、自分の研究成果を発表できるようにとがんばっています。工学におけるマテリアルの分野は今の日本の工業の土台を作ってきました。興味がある人はぜひ熊本大学工学部についてリサーチしてみてください。

工学部 材料・応用化学科4年

男 翔太さん(右)

非鉄をやりたいかつたことと、4年生でまったく違うことに取り組んでみたくて、未経験の分野だった橋新研究室に入りました。現在取り組んでいるのは、金属を密着させて性質を変えていくメッキに関する研究。学部卒業後は大学院に進学することが決まっています。さらに研究を深めたいと考えています。橋新研究室は、研究室の外で集まりワイワイと過ごすことも多く、そんな交流のお陰で、研究室内でもみんなと気軽に話ができることがありがたいです。

火山口から離れた住宅地で超低濃度のガスを検出可能
橋新研究室の研究分野は無機材料、電子材料をベースとした材料構造制御科学。「コンセプトは、ナノ材料をつくり、半導体プロセスに活かして機能性デバイスをつくり、社会貢献することです」と、橋新准教授は話します。現在取り組んでいるメインの研究は火山ガス検知による防災システムの構築。火山ガス検知器はこれまでもありましたが、橋新研究室で開発している検知器は、はるかに低い濃度を検知することが可能です。「空気中の硫化水素が座る椅子が、従来のセンサーよりたたくさんあると考えてください。たたくさんの硫化水素に対し反応できるので、よりはっきりとガスの有無を感じることができます。さらに、ガスがより多く通る道をつくって、低い濃度でも検知できるようにしました」。極低濃度のガスを検知できれば、火山口から遠い住宅地でもガスを把握でき、そこから火山口での濃度を

測ることで早めの避難計画ができます。「GPSで山の起伏を見る方法や、電磁波を計って火山噴火を予測する方法と併用することで、信頼度が高まります」。橋新准教授はこの研究で、「熊本県次世代ベンチャー創出支援コンソーシアム」が開催する「第3回熊本テックグランプリ」に出場。そこで出会った複数の企業との共同研究を計画しています。
**産学共同研究が学びの場
チャレンジしたい学生大歓迎**
熊本大学赴任前は、人の社会に悪影響を及ぼす産業廃棄物のリユースについて研究していた橋新准教授。龍谷大学勤務時に、アルミニウムを溶解する時に生成されるアルミドロスについて研究。アンモニア発生源となりリユースができないアルミドロスから耐火物を合成する方法を見出し、特許を取得しました。立命館大学勤務時に東日本大震災、熊本大学赴任後に熊本地震を経験。「熊本地震は火山性の地震では

ありませんが、余震が多く、人的被害や経済損失は大きかった。災害時にも人命確保ができて、安心安全な社会を構築できれば、と、思いこの研究に着手しました。今後は火山噴火予知研究に、火山学以外の他分野からの研究者の参入も重要だと話します。
ガスセンサーの研究は将来、たとえば人間が発するわずかなガスを計ることで病気の予防につなげる医療応用なども考えられます。「世界最高度のセンサーをつくることのできるのが、この研究の醍醐味です。産学共同の場で、積極的にアイデアを出してくれる学生に来てほしいですね。橋新研究室のモットーは、「つくる、見る、組み立てる、活かす」。学理を追究するサイエンスに対し、社会に役立てる人を幸せにするのがエンジニアリングだと橋新准教授。「学生たちには、社会に出て、社会の要請に応えることができる技術者・研究者になってほしいと思います」。

密着！橋新研究室



大型の装置が多い実験室。大型の二次イオン質量分析装置もその一つ



極小の模様を印刷できるプリンターなどが並ぶ部屋も。企業などとの共同活用も構想中

研究室探訪

Laboratory Report

工学部
橋新 剛 准教授
Takeshi Hashishin

「人を幸せにするのがエンジニアリング」
世界最高感度のセンサーを研究・開発



興味のある研究を 直接教えてもらえる！

ワクワク研究室訪問

高校生の皆さんが興味を持っている学問分野について、専門の研究者から直接、話が聞けるのが「ワクワク研究室訪問」です。少人数を基本としているので、じっくり先生の話が聞けるのが魅力。小さな疑問や関心について、直接指導してもらえば、興味もぐっと深まります。



文学部心理学研究室を訪問。バーチャル・リアリティ（VR）を用いて歩いている感覚を実感したり、集中力を測定する機器を使った実験を体験したりしました。

i 高校の先生を通して高大連携推進室へお申し込みください。随時受け付けています。

自分の夢を 大きく描こう！

高校生のための 熊大ワクワク連続講義

熊本大学を代表する研究者が、自分の研究、高校の授業との関連などを、わかりやすく講義するのが「ワクワク連続講義」。大学キャンパスで行われるプログラムと、各地の高校や研修施設等で開催されるサテライト講義があり、毎回多くの高校生が訪れています。



高校生を対象に、6～10月に行われている「ワクワク連続講義」。そのサテライト講義が7月14日に熊本県立天草高等学校にて実施されました。当日は文系と理系に分かれ、文系の生徒を対象にした講義では、「先生になるための能力は何か」について、考え方の手法を、技術の製作や実験道具を使って学びました。

i 10月27日（土）には玉名市文化センターでサテライト講義を予定しています。参加希望の方は高校の先生を通して高大連携推進室へお申し込みください。

大学の講義の 雰囲気を感じよう！

出前授業

熊本大学で活躍する研究者の専門的な講義が、高校で受けられるのが「出前授業」。大学でなければ受けられない専門的な内容について学ぶだけでなく、大学の講義の雰囲気を体験することもできます。



7月31日に福岡県立八女高等学校にて実施された建築についての出前授業は、大学院先端科学研究部（工学系）の佐藤あゆみ助教が担当。「建築とは何か」という知識に加え、「大学の建築学科でなにを学ぶか」も講義。古くからの建築技術が最先端の技術にもつながっているという内容を、高校生は興味深く聞いていました。

i 出前授業を希望される場合は、実施希望日の2カ月前までに高校からお申し込みください。

特集II

一緒に学ぼう！ 高校生も

熊本大学の高大連携

熊本大学の研究者が、高校生に熊大の魅力と「専門的な学び」の楽しさを伝える、さまざまな講座が開講されています。

熊本大学の
高大連携について詳しくは

熊本大学 高大連携



中学生も体験できる！親子ガールズ・スクール

高校生だけでなく、中学生も体験できるイベントもあります。【親子ガールズ・スクール】は女子中学生、高校生を対象に、最新の科学や技術の話をやさしく解説、また女性研究者が色々な分野で活躍している様子を見て、将来をイメージしてもらおう機会を提供しています。

女子中学生が参加し、塗る漢方薬「紫雲膏（しろんこう）」作りを通して、薬学部で行う実験を体験しました。参加した中学生は、「今まで文系のことしか考えてなかったけれど、今日参加して理系の楽しさを実感できました」と実験に興味をもてたようでした。

熊本大学体育会

って何だ???

熊本大学内最大の会員数を誇る学生自治体、体育会。しかし、どんなことをしている団体なのか、何のためにある団体なのか、知らない人は多いのかも……。体育会に対する素朴な疑問に役員がお答えします！



私が取材しました！
体育会第59代本部 広報長 理学部4年 いわもと あさき 岩本 朝希

体育会とは、



Q 体育会って何のためにある団体なの？ 普段はどんなことをしているの？

体育会とは、スポーツの振興やスポーツを通じて4000人を超える体育会会員相互の親睦を深めることを目的としている学生団体です。体育会には、体育会本部役員と幹事会によって運営されています。



第59代体育会本部のメンバーです



Q 体育会の会員証を持っていると、様々な特典が利用できる！ 熊大周辺のお店でお得なサービスを受けることができたり、幹事会主催のスポーツ大会に無料で参加できたり、本部室でスポーツ用品やアウトドアグッズなどを借りることができる。



スポーツ、アウトドア用品の貸出はお気軽に！

体育会の行事年間スケジュール

- 3
- 2
- 1
- 12
- 11
- 10
- 9
- 8
- 7
- 6
- 5
- 4

4 新入生歓迎企画
サークル生とたくさん交流して、どのサークルに入るか決めよう！



7 フレッシュマンキャンパス
1年生を対象にした2泊3日のイベントで、今年は芦北にいきました！



10 熊本大学耐久遠歩大会
通称遠歩。深夜0時にスタートして、熊大黒髪キャンパスを目指して歩きます。



12 リーダーシップトレーニング
毎年阿蘇で開催するサークル生に向けた1泊2日の研修です。レクもたくさんあります！



体育会は2つの組織で運営されています

体育会公認サークルを管轄する 体育会本部



Q 体育会本部は何をしているの？

体育会本部の仕事は、体育会公認サークルのサポート。各サークルから集まったメンバーが役員となり、サークル生同士の交流や、よりよいサークル運営のための研修などを企画、運営しています。献血などの社会貢献活動も行っています。



昨年11月に主催したイベント「パブルサッカー」の様子

委員長挨拶

第59代体育会で委員長をしております、金子晃です。私たち体育会は、学生のスポーツの振興を図るために存在している組織です。また体育会に入会していない方はぜひ入会と一緒にスポーツに励みませんか？役員一同体育会本部までお待ちしております。



体育会第59代本部委員長
工学部4年
かねこ あきら
金子 晃 さん

スポーツ大会等を運営する 幹事会



Q 幹事会はどんなスポーツ大会を開いているの？

幹事会は、ソフトテニス、バレーボール、フットサル、バドミントンなどオーソドックスなスポーツから、新入生向けの運動会など幅広い大会を年10回程開催しています。上級者、中級者、初心者とパートを分け、また幹事会独自の『女性ハンデ』を設けており、みなさんが楽しめるスポーツ大会となっています。



幹事会主催サッカー大会の様子

幹事長挨拶

こんにちは。私達幹事会は毎週の会議を重ねて、性別、スポーツ経験など関係なく楽しめるスポーツ大会を開いています！学科、研究室、サークル、バイト仲間を誘ってスポーツを通じた思い出を作ってみませんか？



第42代幹事会幹事長
教育学部4年
のぐち みお
野口 美桜 さん

遠歩に参加しませんか？

11月1日深夜0時にスタートする遠歩。歩くことの重要さを再確認し、感動、達成感が味わえるのではないのでしょうか。受付期間は10月1日～5日です。

なんと、来年で60年！

体育会本部は、2018年12月1日で60代になります。これまで長い間、体育会を運営してきましたことを非常にありがたく思います。これまでの伝統を受け継ぎつつ、ますますパワーアップして活動を続けていきます！

文学部 リスナーとメディアマンの目線を掛け合わせる刺激的なメディア営業



江口 省悟
Shogo EGUCHI

株式会社博報堂DY
メディアパートナーズ
ラジオ局(東京都)

文学部コミュニケーション情報学科
平成27年度卒

平成4年生まれ。熊本県菊池市出身。私立真和高等学校卒業後、熊本大学文学部を経て熊本大学大学院学際情報学府へ、趣味は落語鑑賞、ボードゲーム、クラブで音楽鑑賞。将来の夢は故郷熊本県を全国一の観光地にすること。

熊大のココがイイ!

教員の方々が、進路や授業や他愛のない事でも親身に相談に乗ってくれること。

高校生を集めてファッションショー みんなで何かを創りあげる魅力を実感

高校時代は漠然と、いろんな人とかかわる仕事がしたいと思っていました。友だちと熊本市内の高校生を集めて、中心市街地でファッションショーを開催。みんなで一つのを創り上げる楽しさを実感しました。しかし、まだなりたい職業は見つからず、大学で視野を広げようと思っていました。

企画が好きで、分野を問わず仲間とのめり込んだ

大学でダンスを始め、1~2年次は消灯直前まで生協前で練習していました。学科ではオープンキャンパスの企画をみんなで作ったり、百貨店との産学連携プログラムで、未就学児を対象としたワークショップを開発。分野を選ばず、いろいろなことに顔を突っ込む学生時代でした。

早く一人前になり、一からの番組制作にかかわりたい

現在は放送局と協働し、企業の課題をラジオで解決する、メディア営業に携わっています。訴求内容や時期など、数多くの変数が影響するため、直接の効果はなかなか分からないことも多いですが、ラジオリスナーという素人の目線とメディアマンというプロの目線を掛け合わせ、企業と得意先の双方に向き合うのはとても刺激的です。早く自身で一から番組制作にかかわってみたいです。

医学部 看護師として一つのことを究めたく全国的に知られた専門病院に就職



熊野 友美子
Yumiko KUMANO

大腸肛門病センター
高野病院(熊本県)

医学部保健学科看護学専攻
平成28年度卒

平成7年生まれ。熊本県熊本市出身。熊本県立第一高等学校から熊本大学へ。将来の夢は、すてきな人と結婚して10人子供を産むこと。

熊大のココがイイ!

個性的な生徒や尊敬できる先生がたくさんいらっしゃることで。

身の回りの世話だけでなく、心を癒す看護師の仕事に惹かれて

将来は人の役に立つ仕事に就きたいと思っていましたが、高校生の時に祖父が入院した際に看護師の仕事の間近で見て、看護師になりたいと思うようになりました。身の回りのお世話だけでなく、心を癒す仕事に惹かれました。実際に働いてみると、こちらが患者さんに癒されることも多々あります。

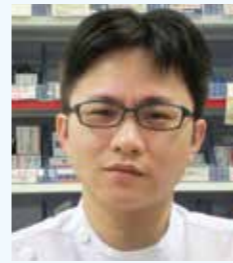
大変な実習も、友人や仲間の応援で乗り切った

テニス部に所属したり、アルバイトを掛け持ちしたりと、勉強以外でもアクティブに過ごすことが多かったです。4年生のときは実習が多く辛いこともありましたが、大学時代に知り合った友だちやバイト先の仲間が応援してくれたのががんばることができました。

頼りになる先輩方のおかげで楽しく仕事をさせてもらっています!

大学病院に就職する仲間がほとんどでしたが、私は専門病院で一つの事を究めたいという気持ちが強かったので、数ある専門病院の中から全国的に認知度の高い高野病院を志望しました。患者の期待と自分の力量のギャップに悩むこともありますが、頼りになる先輩方ばかりで毎日楽しく仕事をさせていただいています。

薬学部 薬を介して患者に寄り添う薬剤師 日々進化する医療現場で奮闘中



安部 智英
Tomohide ABE

大分赤十字病院 薬剤部

薬学部薬科学科
平成18年度卒
大学院薬学教育部
博士前期課程薬物治療学分野
平成20年度修了

昭和58年生まれ。大分県大分市出身。大分県立大分南高等学校から熊本大学を経て熊本大学大学院へ。卒業後は地元大分に戻り、病院薬剤師として就職。趣味はスポーツ観戦。

熊大のココがイイ!

絆が強い。在学期間中はもちろん、卒業後も熊本大学出身の先生や先輩、後輩に助けられています。

進路を決める時に手に取った職業紹介の本で薬剤師に興味

高校2年生までは特にやりたいこともなく、このまま地元の大学に進学して公務員にでもなるのかなと思っていました。実際に進路を決める時期になり、たまたま手に取った職業紹介の本で知ったのが薬剤師という職業。医師や看護師とは異なる立場から、薬を介して患者に寄り添う仕事に興味を持ち、薬剤師になりたいと思うようになりました。

実際の患者さんの血液で遺伝子が病気や薬に与える影響を研究

大学で私が所属した研究室では、人間ドックを受けた方や病院で治療を受けている方の親御さんにインフォームドコンセントを行い、実際に血液を頂いて、遺伝子が病気や薬の効果に与える影響について研究していました。学生の身分で患者さんやその家族に接してみても、接遇や身だしなみ、コミュニケーションの大切さを学びました。

医師や看護師らと、よりよい医療を提供し続ける

大学卒業後は地元で病院薬剤師として働いており、現在は呼吸器科の病棟を担当しています。次々に出てくる新薬や日々変化する医療の現場に悪戦苦闘しながら、医師や看護師など他の医療スタッフとともにより良い医療が提供できるよう頑張っています。

理学部 研究に没頭しつつもフランスでの生活を満喫中



牟田園 正敏
Masatoshi MUTAZONO

フランス国立科学
研究センターCNRS
(フランス・モンペリエ)

理学部理学科
平成23年度卒
大学院自然科学研究科
博士後期課程
理学専攻
平成28年度修了

平成2年生まれ。鹿児島県薩摩郡さつま町出身。鹿児島県立加治木高等学校から熊本大学を経て熊本大学大学院へ。

熊大のココがイイ!

雄大な阿蘇山と情景豊かな天草に近く、教育・研究活動が盛んであるところ。

暗記科目と言われる生物でも暗記の先にある未知の世界に魅力

高校時代は具体的な夢というものは持っていませんでした。ただ、現在の職業につながる点を考えた時に、生物の授業が好きだったことを思い出します。ただの暗記科目だと思われがちな生物ですが、暗記の先にある未知の世界に気づき始めていたのかもしれない。

3年次になる頃には進む道を決意 授業や読書に多くの時間を割いた

大学時代、研究室への配属が決まる学部の3年の頃には、研究者の道を進んでいくことを決めていたので、それに向けて授業や読書に多くの時間を割いていました。もちろん、YouTubeを見ることもありましたが(笑)。研究室配属から博士課程までの6年間は、文字通り研究一色でした。

ゲノムを侵略するインペーターを相手に、日々研究

現在はフランスの研究所で、ゲノム(DNA)を侵略するインペーター(トランスポゾンと呼ばれる)を相手に日々研究しています。研究者はずっと実験をしているイメージかと思いますが、どんな実験でどんな結果になるか妄想している時間も長く、そんな時間も私は好きです。異国の生活は慣れないことも多いですが、妻と一緒にここで生活を満喫しています。W杯でのフランスが優勝した時の熱気を体験できたことも、研究者(まだまだ卵ですが)になってよかったことの一つです。

法学部 一人前の検察官を目指してまだまだ勉強中



堺 華香
Haruka SAKAI

名古屋地方検察庁 検事
(愛知県)

法学部法学科
平成23年度卒
大学院法曹養成研究科
平成27年度修了

平成2年生まれ。福岡県大牟田市出身。熊本県立熊本高等学校を卒業後、熊本大学法学部、大学院法曹養成研究科に進学。平成28年度司法試験に合格後、検察官任官に。

熊大のココがイイ!

学生と教員の距離が近く、遠慮することなく積極的に学んでいけるところだと思います。

将来の夢は漠然としていた高校時代 歴史学者や理系の仕事にも興味

高校生の頃は、昔から歴史が好きだったこともあり、歴史学者になりたいと漠然と考えていました。そのうちに理系の仕事に進みたいと考えるようになるなど、高校時代は、将来について、これといった明確な目標はまったくなかったように思います。まさか、検察官になるとは、微塵も思っていませんでした。

できる範囲で、やれることに取り組んだ大学時代

大学生の頃は体が弱く、あまり充実した学生生活を送ることができませんでした。しかしその中でも、アルバイトをしたり、ゼミ活動をしたりと、できることに取り組んでいたように思います。

1年目の新米検事として日々精進しています!

熊本大学法学部を卒業した後は、熊本大学の法科大学院に進学し、現在は、名古屋地方検察庁で、検察官として働いています。1年目の新任検事であり、まだまだ毎日が勉強の日々ですが、一人前の検察官になれるよう、精進しています。

工学部 設計したアンテナが、移动通信システムに採用されることが目標



豊見本 和馬
Kazuma TOMIMOTO

ソフトバンク株式会社
先端技術開発部(東京都)

工学部情報電気電子工学科
平成24年度卒
大学院自然科学研究科
博士前期課程
電気電子情報工学専攻
平成26年度修了

平成2年生まれ。沖縄県宜野湾市出身。国立沖縄工業高等専門学校から熊本大学へ3年次編入学で入学。中・高・大とハンドボール部に所属。現在も年に一度ハンドボール観戦に行く。趣味はランニングとフットサル。

熊大のココがイイ!

周辺の自然やほどよい立地の中で学生生活をおう歌できること。

通信士だった父の姿と、日々進歩する移动通信に魅力を感じた

父親が通信士だったこともあり、いつの間にか通信に携わる仕事を志すようになっていました。特に、日々進歩していく移动通信に魅力を感じ、いつか自分も移动通信の発展に貢献したいと考えるようになりました。そのため、さらなる知識を得たいと考え、工学部を志望しました。

なかなか成果が出なくても先生や仲間から多くを学んだ研究生生活

大学では、学部4年から研究室生活が始まり、小型アンテナの広帯域化に取り組みました。研究成果はなかなか出ませんでした。指導教員や研究室メンバーからは、技術・知識や研究に対する姿勢などさまざまなことを学びました。今でも研究室で学んだことは日々の業務に生かされており、貴重な財産になっています。

電波伝搬測定で得られた課題に対し解決することが今の仕事

入社後は移动通信のアンテナや電波伝搬の研究開発を行う部署に配属されました。実際に電波伝搬測定を行い、得られた課題に対してアンテナを用いて解決することが私の業務内容です。私が設計したアンテナが実際の移动通信システムに採用されることを目標に業務に取り組んでいます。

卒業生 ジャーナル GRADUATES' JOURNAL

本学の卒業生たちの今に迫る「卒業生ジャーナル」。

熊本県内はもとより、国内外で活躍している

先輩たちの様子を、これまでの歩みや苦勞、

そして喜び、楽しみなどを通じてご紹介します。

教育学部 熊本地震で「当たり前」の大切さを実感 生徒とともに自分も大きく成長できた



本川 健太
Kenta MOTOKAWA

山鹿市立鹿本中学校 教諭
(熊本県)

教育学部中学校教員養成課程
社会科専攻
平成20年度卒

昭和60年生まれ。熊本県天草郡苓北町出身。熊本県立天草高等学校から、1年の学習期間を経て、熊本大学へ入学。臨時採用を含め、現在、4校目の中学校で勤務。趣味は娘と遊ぶこと。ジョギング。

いろいろな職業に興味をもった中学時代 回り道もいい経験に

中学生の頃は先生という夢を追いかけましたが、高校時代はスポーツトレーナーなど他の職業にも興味を持ちました。しかし、先生方との会話や、一緒に行事などをやり遂げたときの達成感が、教育学部へと導く道標となっていました。回り道も今はよい経験になったと思っています。

3年次からの研究や教育実習で改めて教師になると決意

将来に対するイメージがおぼろ気だった大学の1、2年次はバイトが生活の中心。3年次にゼミで研究したり、教育実習を経験することで目標を改めて考え直し、先生になると決意しました。卒論提出前は研究室で朝を迎え、友人と苦笑いする日も。時間がある時は一人旅に出て、たくさんのお会いを経験しました。

うまくいかないことがあっても相談できる仕事環境に感謝

「超魂(ウルトラソウル)」をモットーに日々過ごしています。うまくいかないときもありますが、相談できる環境(職場)があることに感謝しています。熊本地震の際、勤務していた学校は校区に震源地がありました。「当たり前」の大切さを生徒の姿で感じ、学校生活で生徒とともに立ち向かった1年は自分を大きく変えました。これからも勉強、部活など、生徒と一緒に成長したいです。

熊大のココがイイ!

先生方の厳しくもあたたかい言葉があったからこそ今の自分があります。



夢科学探検2018 理学部探検、工学部探検、もの・クリChallengeを開催します

ドキドキ・ワクワクするような実験を通して科学の面白さ、不思議さに触れてもらいイベントで、今回で26回目を迎える本年度は約100件の演示実験を予定しています。参加者は例年2,000名を超え、本学黒髪南地区では最大の一般市民向けのイベントとなっています。

【開催日時・場所】
平成30年11月3日(土) 10:00~15:00
熊本大学黒髪キャンパス南地区
(工学部・理学部・大学院自然科学教育部)

【参加対象者】
小学生~一般の方
【申込方法】
事前申込は不要
当日お越しただいで各ブースを回っていただく形になっております。
【参加費】 無料
【問い合わせ先】
熊本大学工学部教務担当
TEL:096-342-3522
E-Mail:yume@tech.eng.kumamoto-u.ac.jp



熊大 夢科学探検



「はばたけ! 熊本サイエンスガール Girls, Enjoy science!」のイベントを開催しました

平成30年7月21日(土)工学部百周年記念館にて女子中高生とその保護者を対象にした「理系のロールモデル講演会」を開催しました。また、8月4日(土)には工学部と理学部で「女子高校生のための進路相談会」を開催しました。この2つのイベントは科学技術振興機構(JST)支援のもとで行っている女子中高生の理系進路選択支援プログラムと大学院先端科学研究部男女共同参画推進委員会と共同で実施した取り組みで、女子中高生を対象に幅広い理工系分野に対する興味・関心を呼び起こす目的で行っています。他にも、7月28日(土)に薬学部で紫雲膏を作る体験実習、8月7日(火)に菊陽町にあるソーニーマコンダクタマニューファクチャリング株式会社へのプラントツアーを実施しました。多くの女子中高生が参加し、進路選択に関する視野を広げ、理系分野の楽しさを実感してくれました。



「理系のロールモデル講演会」の様子



熊大版 医療職体感ツアー 2018を開催しました

平成30年8月18日(土)、熊本大学医学部附属病院中央診療棟にて、「熊大版 医療職体感ツアー2018」を開催しました。このイベントは、医療職についての体験を行うことで、親子のふれあいを深め、子どもたちが広く社会を知る機会とすることを目的としたものです。
当日は、中学生50名とその保護者が参加。5つの班に分かれて、診療放射線技師や臨床

検査技師、理学療法士や臨床工学技士など、医療に関わるさまざまな仕事を体験しました。臨床検査技師体験では、薬液を使った検査や、顕微鏡での細胞観察などを実施。また、臨床工学技士体験ではME機器センターで、電気メスを実際に使って、野菜を切ったりする体験などにチャレンジしました。理学療法士体験では、実際のリハビリの道具を使った体験も。中学生は、どの体験も、興味深く、

積極的に参加していました。医療業界につきたい、という中学生にとって、今回体験した職種は、認知度が低いものもあり、参加者の中には「医療に関わる職業には、医師、看護師、薬剤師以外にもたくさんの業種があることがわかりました」という人も多かったようです。今回の体感ツアーを通して「将来の選択肢が広がりました」と話していました。



Kumarism(くまりずむ)が球磨中央高校で移動大学「みらいずむ」を開催しました

学生団体の「Kumarism(くまりずむ)」は、熊本地震からの創造的復興を支援するために、熊本の観光情報をまとめた「世界一熊本に詳しいサイト創設」を目指して立ち上がった団体です。
同団体は、学内の政策コンペや、本学の学生自主企画プログラムを支援する「きらめきユースプロジェクト」への参画をきっかけに、地震からの復興と地方創生の一助になればと考え、熊本創生推進機構のサポートを得ながら、高校生に観光記事作成を教える熊大移動大学「みらいずむ」の活動をはじめました。
平成30年6月11日、球磨中央高校地域未

来探究科にて移動大学「みらいずむ」を開催し、写真撮影のコツやプレゼンテーションのテクニックなど、実践を通じて高校生に伝えました。参加した高校生たちは、さっそく様々な構図の写真を撮ったりと、表現方法に工夫をこらしました。球磨中央高校での「みらいずむ」は全4回の授業を予定しており、今回は2回目。「地元のことを自分たちで発信する方法を身につける過程で、地域の魅力を再発見すること、地域の課題に気づくこと、大学生と触れあうことで進路を考えるきっかけにもつながってほしい」という想いを込めて授業計画を立てているそうです。



山形県議会の議員団が熊助組の調査のために来校されました

学生団体の「熊助組(くますけぐみ)」は、工学部公認の学生災害復旧支援団体です。熊本地震後のボランティア支援にも力を注いでいます。
その熊助組の活動内容等の取材及び調査のために、山形県議会厚生環境常任委員会から委員(県議会議員)8名と事務局職員4名の計12名が本学に来校されました。
調査での意見交換に先立ち、同委員会佐藤委員長から挨拶及び委員の紹介の後、宇佐川工学部長から熊助組の紹介及び概要等の説明がありました。引き続き、熊助組顧問の竹内准教授から、設立経緯や活動内容について説明があった後、熊助組幹事の松田楓さん、大坂洋平さん、藤村藍香さんから、加入理由、活動から得た経験、熊本地震後の実際のボランティア活動状況等について説明がありました。
熊助組からの説明の後には、委員の方々から「ボランティアをやる上で、学生としての強みや弱みは?」、「他の団体や他大学等との連携は行っているのか?」等の質問があり、活発な意見交換が行われました。



ダイビング部が「海への旅」中村征夫写真展のボランティアスタッフとして活動しました

平成30年8月7日から12日まで、熊本県立美術館で開催された水中写真展「海への旅」にて、体育会ダイビング部がボランティアスタッフとして活動しました。中村征夫さんは日本の水中写真の第一人者であり、環境問題や水中写真に関する著書、写真集を数多く手がけています。写真展では「海~神秘的な青の世界へ~」、「驚異の水中アート」、「[床~極限にいきる~]」、「[東京湾~ひしめく命~]」、「海中顔面博覧会」、「[ひさかた~海の中の光~]」のテーマに分けて、約200点の写真が展示されました。来館者は作品の美しさやメッセージに感動し、見入っていました。毎日行われたトークショーも大好評でした。
中村さんは部員にも気さくに話しかけられ、海や水中写真について興味深いお話を聞くことができたようです。写真展終了後には看板にサインを頂き、部員1人1人と力強く握手をしてくださいました。部員にとって「貴重な刺激、経験になりました」と話していました。



平成30年度 熊本大学学生支援室FD・SD講演会「障害のある学生への合理的配慮」~制度改正により教職員に求められること~を開催します。

修学場面の合理的配慮について、信州大学高橋知音教授をお招きし講演会を開催します。
【開催日時・場所】
平成30年10月31日(水)14:30~16:30
熊本大学黒髪キャンパスくすの木会館
【対象者】
熊大教職員、障がい学生の支援を実施して

いる熊本県内の教職員、教育・福祉・就職等で障がい者支援に携わっている方
【申込方法】
申込締切:10月19日(金)
メール、お電話(FAX)で申込
当日参加可(事前申込にご協力ください)
【参加費】 無料

【問い合わせ先】
熊本大学学生支援室
TEL:096-342-2765・2766
FAX:096-342-2767
E-Mail:gag-sien@jim.kumamoto-u.ac.jp
【URL】
https://sien.kumamoto-u.ac.jp/

熊本大学基金へのご協力に感謝し、心より御礼申し上げます。

№43 (平成30年5月1日～平成30年7月31日)

卒業生の皆様、在学生の保護者の皆様、法人・団体等の皆様、本学の退職者及び教職員の皆様から、これまでに約13億8428万円(平成30年7月31日現在)のご寄附をいただき、研究・教育に資する事業に取り組ませていただきました。また、平成28年の熊本地震復興事業基金へのお寄せいただきました寄附金は、熊本大学の復興に向けて、被害学生へ対する修学支援や被災しました建物の修繕費、設備・機器の更新・修理費のために、大切に活用させていただきます。皆様のご協力に厚く御礼申し上げます。

今号では、平成30年5月1日から平成30年7月31日までの間に入金を確認させていただきました個人221名、57法人・団体等の寄附者すべての皆様へ感謝の意を込め、ご芳名を掲載させていただきます。公開を希望されない寄附者の皆様につきましては、掲載しておりません。

また、万一お名前に記載漏れがある場合は、誠に恐縮ではございますが、基金事務局(電話:096-342-2029)までご連絡ください。

皆様の更なるご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

1. お名前・寄付金額の掲載

(寄附金額別、五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※()内の数字は、累計寄附金額(万円)です。

<熊本大学基金>

【30万円】	堤化学株式会社(610)						
【20万円】	佐々木 宏(20)						
【10万円】	紙谷 正夫(61)	中尾 徳子(10.5)					
【5万円以下】	井芹 嘉久(31)	岩本 政志(3)	浦田 保志(5)	岡崎 美知治(9)	勝田 真弓(3)	坂本 明子(0.5)	坂本 寧(1.5)
	霍川 孝志(1)	寺尾 正子(0.5)	西口 昭一(6)	野地 典子(0.5)	林 和徳(3)	前田 浩(16)	松尾 敏之(11)
	松岡 潔(3)	宮原 二郎(1.8)	本島 昭男(13)	吉永 健(12)			
	医療法人朝日ヶ丘クリニック(10)		日向市・東臼杵郡薬剤師会(3)				

2. お名前のみ掲載

(五十音順・敬称略にて掲載させていただきます。) ※[]内の数字は、累計寄附回数(回目)です。

<熊本大学基金>

浅井 淳[3]	有村 知子[5]	生野 浩正[3]	池田 純規	一安 幸治[5]	井藤 節朗	入江 弘基[2]	入江 優太
岩田 礼	植田 光憲[2]	上塚 昭逸[6]	上村 順一[10]	牛島 共一	牛島 淳	衛藤 光明[19]	江原 雅子
大内田 務[5]	大島 隆志[3]	太田 健一	大塚 光希[3]	岡島 寛[8]	緒方 義也[6]	小貫 フキ子[4]	角本 昌紀
樺島 敏男	河上 和正	川口 辰哉[2]	河村 久幸	北島 美則[11]	北本 康則[11]	草野 龍二[12]	小出 力[3]
古賀 倫嗣[2]	児倉 静二[4]	近藤 繁美[8]	佐伯 千恵子[9]	境 香織	坂田 成美	佐藤 貴久[5]	澄川 あゆみ
瀬戸 致行[13]	高橋 啓介[3]	高濱 るり子[3]	立神 高明[2]	立神 千種[4]	近本 亮[3]	恒富 昶彦[2]	西牟田 康博[2]
波多野 恭行[12]	馬場 太果志[2]	馬場 秀夫[12]	浜崎 禎	濱崎 剛[2]	東 大弼[4]	平田 修	福井 寿啓[3]
二塚 信[15]	堀野 敬[8]	本田 博志[3]	松井 清二[5]	松尾 知子	松本 博善[4]	三戸 恒美[2]	宮川 太平[3]
宮原 弘子	宮本 恭子	矢野 茂敏	山内 穰滋[8]	山田 孝吉[7]	吉田 實	米村 昌子	
諫山工業株式会社	医療法人秋津会徳田脳神経外科病院[11]	医療法人宏悠会なかもろ整形外科クリニック[2]	医療法人こでまり小児科クリニック				
医療法人社団愛育会福田病院[6]	医療法人大精会古庄胃腸科・内科医院	医療法人八田内科医院	イー・ネット	株式会社アスク工業[2]			
株式会社岩永組[2]	株式会社エス・エル[2]	株式会社熊本計算センター[2]	株式会社サンキョードラッグ	株式会社ゼロワン			
株式会社タナカ建築	株式会社電流	株式会社富坂建設	九州産交運輸株式会社	熊本トヨペット株式会社[2]			
サンコーコンサルタント株式会社九州支社	社会医療法人緑泉会米盛病院		社会医療法人黎明会宇城総合病院[2]				
積水ハウス株式会社熊本支店	高橋酒造株式会社	ネットヨタ熊本株式会社[2]	ハクソウメディカル株式会社	ホープ印刷株式会社[2]			
有限会社インテリアシンコー[3]	有限会社九州松栄産業[2]	有限会社福島文隆堂[2]	有限会社マルイ商会	苓州建設工業株式会社			

<熊本地震復興事業基金>

大林 光念[3] 梶 修一郎[5] 宮本 保[13] 山尾 敏孝[6]

3. お名前・寄附金額の掲載を希望されなかった寄附者の皆様

個人116名、20法人・団体等

INFO

くまだい研究フェアを開催します

熊本大学の研究を一挙にご紹介! 熊本大学を代表する世界トップレベルの研究や、テレビなどで紹介された研究を講演やポスターでわかりやすくご紹介いたします。

【開催日時・場所】
平成30年12月14日(金) 10:00~17:00
熊本大学工学部百周年記念館

【参加対象者】
どなたでも
【申込方法】
事前申込にご協力ください
(Webサイトをご確認ください)

【参加費】無料
【問い合わせ先】
熊本大学
研究・産学連携部 研究推進課
TEL: 096-342-3302

【URL】
<https://poie.kumamoto-u.ac.jp/URA-web/kumadaifair/2018kumadaifair.html>



INFO

第34回熊本大学附属図書館貴重資料展『永青文庫本に見る「旅」—細川幽斎文学書を中心に—』公開講演会/第13回永青文庫セミナー「永青文庫と「旅」」を開催します

附属図書館は、貴重なコレクションを数多く保管しており、国指定重要文化財も含まれています。今年の資料展では『永青文庫本に見る「旅」』をテーマに、古典文学における「旅」のイメージを追究します。

【開催日時・場所】
■貴重資料展
平成30年11月2日(金)~4日(日)10:00~17:00(3日間限定)
■公開講演会/第13回永青文庫セミナー
平成30年11月3日(土)14:00~15:30

演題:「永青文庫と「旅」」
講師:竹島一希(大学院人文社会科学部准教授)
場所:熊本大学附属図書館1階 ラーニングcommons

【参加対象者】
どなたでも
【申込方法】
事前申し込みは不要です。

【参加費】無料
【問い合わせ先】
熊本大学附属図書館
TEL:096-342-2212

【URL】
<http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp/news/2672>



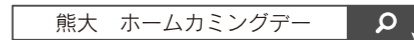
INFO

第13回ホームカミングデーを開催します

卒業生と学生、教職員との交流を図ることを目的に開催します。大学の近況報告、学生によるアトラクション、キャンパスツアー等多彩な行事と交流の場を用意しています。

【開催日時・場所】
平成30年11月4日(日)
12:30(受付)~17:30
熊本大学工学部百周年記念館、
附属病院山崎記念館、薬学部宮本記念館
【参加対象者】熊大卒業生
【申込方法】
メール、FAXにて問い合わせ先に直接申込

【参加費】
2,000円(歓迎パーティー参加の場合)
【問い合わせ先】
熊本大学総務部総務課
ホームカミングデー担当
TEL:096-342-3116/FAX:096-342-3110
E-Mail:kuma-hcd@jimu.kumamoto-u.ac.jp



REPORT

第5回熊本大学九州連合同窓会を開催しました

第5回熊本大学九州連合同窓会(安田宏正会長)が、7月7日(土)ホテル日航熊本(熊本市)において、熊本市在住の同窓生など約140名の参加を得て開催されました。毎年行われている同窓会は、九州各地で開催することとなり、今年度は2年振りの熊本市での開催となりました。

当日は、前半に総会・講演会が、後半に交流会が行われ、総会では、安田宏正会長、

二塚信熊本大学同窓会連合会会長による挨拶の後、来賓紹介、平成29年度の卒業生表彰受賞者紹介、役員等紹介が行われました。

講演会では、原田信志学長から「熊本大学の復興とその後」と題した基調講演が行われ、宇佐川毅工学部長から「熊本大学におけるe-Learningのあゆみ—全国に先駆けた全学教育から熊本地震での安否確認まで—」と題した特別講演が行われました。

交流会では、松本泰道理事から挨拶と乾杯の発声が行われ、参加者は賑やかに世代や学部を超えた交流を楽しみました。

会の中では、現役学生である応援団(中村あゆみ第45代団長)から「巻頭言」と「五高寮歌」が披露されました。

閉会に際しては、高田敬之九州連合同窓会副会長から挨拶があり謝意が述べられ、盛況のうちに会は閉会となりました。





第五高等中学校新築落成報告 (五高記念館所蔵)

1887(明治20)年に開校した第五高等中学校は、黒髪村に新校舎を竣工した翌年の1890(明治23)年10月10日に第1回開校記念式を挙行了。式典に際して、生徒の競技・競馬などの催しがあり、翌日の学校開放には市民2万人が詰めかけた。

新校舎の設計、工事の監督を担当した文部省四等技師 久留正道により、式典の最初に読み上げられたのが、「第五高等中学校新築落成報告」である。建設の経緯、工事費の総額が10万円、敷地面積が5万1306坪余であること、本館・化学実験場・物理実験場・寄宿舎等の建築費、起工・竣工日等が記されている。

久留正道は、工部大学校(現東京大学)でジョサイア・コンドルに学んだ。山口半六とともに文部省建築課を立ち上げ、第一から第五までの高等中学校、東京音楽学校奏楽堂などの設計・監理を担当した。その後、1893(明治26)年シカゴ万国博覧会の日本館(鳳凰殿)建築にも携わっている。

久留と山口が設計した本館等の図面48枚は熊本大学附属図書館と五高記念館に保存されており、40枚が重要文化財附指定となっている。

文 薄田 千穂(五高記念館)

※記念式は当時の表記に基づく。

※五高記念館(国指定重要文化財)は、熊本地震による被害のため長期休館中です。